

第4回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

●日 時：令和6年9月26日（木） 10：00～11：50

●場 所：土浦市役所3階 庁議室

●出席者：

〔有識者会議委員（14名）〕

大澤委員長、佐野副委員長、島岡委員、森委員、今高委員、堀越委員、石井委員、松山委員、菅谷委員、伊藤委員、内村委員、山崎委員、大塚委員、須澤委員（代理出席）

〔土浦市（10名）〕

入野教育長、山口市長公室長、塚本総務部長、水田市民生活部長、白田障害福祉課長、真家こども未来部長、沼尻参事兼商工観光課長、福澄参事兼都市整備課長、佐賀参事兼文化振興課長、檜山消防長

●事務局（9名）：

佐々木政策企画課長、川村主任政策員、小野主任政策員、上田政策員、鬼脇政策員、榮政策員
土田DX推進課長、佐々木DX課長補佐兼情報管理係長、大山デジタル推進係長

●配布資料：

- ・資料1－1 第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録
- ・資料1－2 第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について
- ・資料2 「土浦市まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」策定に係るアンケート調査結果報告書【概要版】
- ・資料3 第3期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」（素案）
- ・参考資料1 第3期土浦市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」（案）・「総合戦略」（素案）概要版
- ・参考資料2－1 アンケート調査結果報告書（高校生・大学生）
- ・参考資料2－2 アンケート調査結果報告書（転入者）
- ・参考資料2－3 アンケート調査結果報告書（転出者）
- ・参考資料2－4 アンケート調査結果報告書（子育て世帯）
- ・参考資料3 第3期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」の成果指標の見直しについて

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・まち・ひと・しごと創生総合戦略と同じような計画として総合計画があるが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の特徴は、重点化だと考えている。
- ・人口ビジョンを達成するための政策を絞り込んで、総合戦略を策定していきたいと考えているので、委員の皆様には、忌憚のないご意見をお願いしたい。

3 報告事項

(1) 第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議 議事録

(2) 第3回土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議での主な意見とその対応について

【事務局】

- ・配布資料に基づき説明。

【委員】

- ・資料1－2の3ページのTXの土浦延伸は、2060年以降の話だったと思うが、本市の人口ビジョンを見ると現在の約14万人から約8万5千人になるような推計だった。TXの土浦延伸の影響を踏まえた人口推計も検討してほしい。

【事務局】

- ・2050年の茨城県のあるべき姿として、TXの県内延伸が示されている。今回の人口ビジョンの目標年次は2070年であるため、TXの土浦延伸による本市人口への影響を反映できるよう現在整理しており、次回の会議において提示する。

(3) 土浦市将来の人口ビジョンに係るアンケート調査の結果について

【事務局】

- ・配布資料に基づき説明。

【委員】

- ・資料2の3ページを見ると、転入者は本市での生活面に満足している割合は多いが、不満を感じる項目として「治安が悪い」の意見が多い。「治安が悪い」の具体的な内容が分かるとよい。
- ・出産関係について、国も支援しているが、出産費用は増額傾向にある。背景には、増額しないと病院経営が難しいという現状もあると考えられる。そのような中、土浦市では出産等に関する補助はどの程度行っているのか教えてほしい。

【事務局】

- ・「治安が悪い」の回答が多い点に関して、数値として出ているものとしては、都市データパックの「住みよさランキング」があり、全国の815市・特別区の中で、土浦市は前回の調査よりランキングが下がっている。その要因として、1,000人当たりの刑法犯認知件数が788位、交通事故が698位と前回調査に比べて順位が下がっており、そういったところから治安が悪いと感じている人が多くなっているのではないかと考えている。
- ・出産育児一時金については、令和5年に国が支給額を増額している。一方で、病院によって出産費用は異なっている現状がある。全国で出産育児一時金の取組を行っているが、土浦市がどのようにしていくべきか検討していきたい。

【委員】

- ・出産費用は、医療機関によって異なるため、実態を調査してほしい。

【事務局】

- ・出産ができる医療機関が少なくなっているという現状がある。出産費用の平均額が約45万円から50万円であるといった状況を踏まえ、令和5年に国が出産育児一時金を42万円から50万円に増額したが、それでもまだ不足するという話を伺っている。出産費用の実態を調査し、次回の会議で示

したい。

【副委員長】

- ・「治安が悪い」の意見に関して、アンケートの自由記述欄にヒントがある。熱心な意見も多数あるので、A Iなどの技術を使って整理してはどうか。暴走族が多い等のキーワードを取りこぼさないでいただきたい。

【事務局】

- ・4種類全てのアンケートの自由記述において「治安が悪い」という意見が多かった。「治安が悪い」の要因として、交通ルールに関すること以外にも、シャッター街が多いという意見も挙げられていた。シャッター街への対策としては、中心市街地の空き店舗に新たに開業する方に家賃又は改装費用の補助を行うほか、学生が多い街といった本市の特徴を生かして、高校生に協力いただきながらシャッターアート事業も行っている。地域活性化などの施策と結びつけながら防犯対策を進めていきたい。

【委員長】

- ・副委員長の意見のとおり、自由記述欄の意見はただ羅列するだけではなく、副委員長からのアドバイスももらいながら、A Iの活用等を図り、ポイントを押さえるように整理してほしい。

【事務局】

- ・A Iの活用などについて、技術的なアドバイスをいただきながら整理していきたいと考えている。

【委員】

- ・先程から出産費用に関する話がでていますが、一方で、妊娠を望んでいてもなかなか授からずに不妊治療をしている方が多い現状がある。そのような中、不妊治療に対する助成が少なく、助成制度を知らない方が多いため、この点に関しても検討していただきたい。

【事務局】

- ・出産前の部分を含めて、本市において有効な子育て支援について検討していきたい。
- ・本市においても不育症治療に対する助成は行っているが、制度の周知が不足していると実感している。更なる周知啓発に努めていきたい。

【委員長】

- ・子育て支援に対する取組は、国の動向を待っているのではなく、市で積極的に取り組んでほしい。

4 議 事

(1) 第3期土浦市まち・ひと・しごと創生「総合戦略」(素案)について

【委員】

- ・土浦市はイベントや学校が多い、空港に近いなど、魅力はたくさんあるが、富裕層がつくば市に流れていると感じている。
- ・誰も取り残さないという視点はもちろん重要であるが、富裕層の確保という視点を総合戦略の中に入れることを検討してもよいのではないか。

【委員】

- ・表現が難しいところもあるが、例えばインバウンドなど、富裕層に目を向けていくことは個人的には重要な視点だと考えている。

- ・土浦市の魅力は、東京都へのアクセスが良い、茨城空港がある、将来的にTXが延伸するという点だけではない。土浦駅は常磐線の中でも特急列車が止まる中核的な駅であり、東口には霞ヶ浦があり、駅周辺に飲食店街が広がっている。このような環境が揃っている場所は県内でも少ない。
- ・しかし、駅周辺は雑多な印象を受けるため、霞ヶ浦の港周辺や中心市街地の活性化の取組など、一体的なアプローチが必要ではないか。
- ・モール505は魅力的で、いろいろなイベントを開催するなど、さらに活用できるのではないか。
- ・観光政策のブランディングを含めて、土浦市のまちの顔になるものが必要ではないか。
- ・例えば、土浦市は海軍のまちであるという特徴を生かして、阿見町などと連携した観光の取組を行った方がよいのではないか。

【委員】

- ・土浦市は、東京都へのアクセスがよく、マンション等が充実していることから、住まいを持ちながら起業できるところが県内他市に比べて魅力的な点である。
- ・土浦市では、まちなかへの定住促進に向けた補助制度として、アパートに住む方やアパートを建設する方に対して補助を行っているかと思うが、この制度が若い世帯が駅前に住む、あるいは、アパートを建てるきっかけになっていると考えている。ただ、対象となるエリアが非常に狭いため、エリアの見直しの検討が必要だと考えている。
- ・資料2の1ページを見ると、若者の地域への愛着について、「愛着がある」という意見が増えている。私が筑西市にいた時には、地域の高校生・大学生が筑西をプレゼンする「筑西まちづくりキャンパスチャレンジカップ」など、地域のブランディングに向けた取組に対して支援を行っていた。土浦市においても、学生などの若い方が、地域でやりたいことに対して支援する取組を行ってほしい。

【事務局】

- ・富裕層をターゲットにした取組は、なかなか難しいと考えている。自転車のまちづくりを進めるにあたって、当初はサイクリストの速さを競うようなイベントが多かったが、昨年からは、台湾の台南市と友好交流協定を結んだことをきっかけとして、台湾の観光客をターゲットに、自転車に乗るだけでなく、レンコン掘りや花火、そば打ちを体験できるような取組を実施してきた。
- ・先日、台湾の自転車メーカーのGIANTにツアーを組んでもらい、台湾の方に本市に来ていただいたが、ツアーは4泊5日で30万円程のプランであり、富裕層向けの取組の一つだと考えている。
- ・さらに、今年度は、都内在住の親子や企業研修を対象に、本市の自然を体験してもらえるような取組を検討している。
- ・若者への取組に関しては、前回の会議においても高校が多い特徴を活かし、高校生を全面に出した戦略が良いという意見があった。現在は企画から運営まですべて高校生が行う「学祭TSUCHIURA」や高校の先生が立ち上げて行っている「土浦若者まちプロジェクト」がある。今年度は、土浦ティーンズフェスを行っているとともに、子ども食堂の運営などの高校生による自主的な活動が増えてきている。市としても引き続き支援していきたい。

【委員】

- ・富裕層に関して、今年の土浦全国花火競技大会で、60万円程度の栈敷席を用意していると伺っているが、メディア等を活用してさらに周知をした方がよい。北海道のよさこいでも、40万円程度のサービ

スに驚いたところだった。

【事務局】

- ・今年の土浦全国花火競技大会では、観光会社2社に協力してもらい、リクライニングがあるなど少数でゆっくり花火を観覧できるVIP席を試験的に導入する予定である。さらに、ふるさと納税の返礼品として特別な席を設けることにしている。今回好評だった場合は、次回の大会でも取組を継続できるように検討していきたいと考えている。

【委員長】

- ・富裕層の誘致に向けて、長崎県平戸市の平戸城での宿泊や、稲敷市の大杉神社でのプレミアムツアーなどの事例があり、各自治体でターゲットを分けた戦略を講じている。富裕層向けといったマーケティングも必要ではないか。

【委員】

- ・TXが土浦に延伸しても、このままではつくば市に人が流れてしまう可能性が高いと感じている。土浦駅周辺には、霞ヶ浦やJ：COMスタジアム、陸上競技場など、歩いて行ける距離にある施設が多い。その利点を生かして、例えば、霞ヶ浦で気軽に船に乗れる企画や、高校野球の決勝をJ：COMスタジアムで行うなど、土浦駅周辺でのイベント等を充実していくとよいと考えている。
- ・車ではなく公共交通で土浦市に来ていただけるような環境を整えば、高校生も親の車送迎に頼らず自力で移動できるようになり、周辺施設を気軽に利用できるようになる。

【事務局】

- ・昨年度、TXの土浦延伸が決まったところであり、2050年を目標として延伸するための検討を進めているところである。本市に延伸する場合、人を呼ぶための検討を更に進めていかなければならない。つくば駅と土浦駅を結ぶことは決定しているため、沿線開発とともに土浦駅周辺も視野にいれながら検討を行っている。今いただいたご意見も踏まえて、土浦市に来てもらえるような施策を講じていきたい。

【委員】

- ・保育園に入園されるベトナム人の方が増えてきていると感じている。最近の外国人の方の流れを教えてください。

【事務局】

- ・2019年に特定技能外国人の円滑な受け入れを促進するため、茨城県とベトナムが協定を結んで積極的にベトナム人を受け入れている。協定締結によってベトナム人が増えており、本市においては、現時点でベトナム人の割合が一番多い状況となっている。そのため、ホームページや暮らしのガイド作成など対応をしている状況だが、引き続きニーズを把握しながら、どのようなことができるか検討していきたいと考えている。

【委員長】

- ・総合戦略を検討する上で、外国人が増えていることをもう少し意識してほしい。

【委員】

- ・移住者や子どもを増やす取組として、花火大会などのイベントによって、市で実体験をしてもらうことは有効な手段だと思う。このようなイベントを発信するために旅行会社と連携し、本当に住んだ時

のイメージが持てるようなツアーなどを計画し、さらにＩＣＴを活用して発信すると、若い世代の方にも来ていただける市になるのではないかと考えています。

【事務局】

- ・現在、シティプロモーションを強化している中で、購買プロセスであるアイサスを踏まえ、まず土浦市を知っていただくということで、様々なツールを活用している。ホームページを見てもらうだけでは本市に来ていただけないため、例えば土浦を舞台としている機動警察パトレイバーとコラボして、土浦を知ってもらうような取組を行っている。その他にもサイクリングなど、様々なツールやコンテンツと掛け合わせ、市を積極的にプロモーションしていきたい。

【委員】

- ・神立駅を利用している就業者が多いため、ＪＲ常磐線の特急列車の停車駅に、神立駅を復活させてほしいと考えている。
- ・マイカーでの通勤者を減らすように検討していきたいと考えているため、市としても既存の公共交通の利便性の向上を検討していただきたい。

【事務局】

- ・常磐線の輸送力増強については、これまでも県南常磐線輸送力増強期成同盟会及び県の輸送力増強期成同盟会を中心に組み組んでおり、土浦駅以北の特急列車の本数の増加、停車駅の追加など毎年要望活動をしている。
- ・なかなか動かない部分もあるが、こういった要望活動を通して、常磐線の東京駅への乗入れも決定した経緯もあるため、引き続き組み組んでいきたいと考えている。

【委員】

- ・つくば市との市境に整備されるスマートインターチェンジについて、本市と同様につくば市も企業誘致等を考えている可能性がある。整備をなるべく早く進めるべきだと考える。
- ・れんこんを生で購入し、自分で料理して、食べて、消費してもらうことはなかなか難しい。現在、土浦市がれんこんサラダ化プロジェクトを進めているが、ＪＡや業者などと連携して、スーパーで買ってすぐ食べられるような加工ができればよいと考えている。
- ・富裕層は、どうしてもつくば市に流れる傾向がある。例えば、ＪＲＡの関係者の中には、美浦村だけでなく、阿見町、牛久市、土浦市に家を建てる方もいると思う。そういった方々を誘致していけば、少しずつ市を活性化していけるのではないかと考えている。

【事務局】

- ・スマートインターチェンジについては、先日事業化が決定し、アクセス圏拡大に伴う新たな土地利用の創出による、企業誘致の促進や物流の効率化などの効果が見込めるのではないかと考えている。まだ始まったところではあるが、ご意見を踏まえて進めていきたい。
- ・れんこんのサラダ化プロジェクトに関しては、令和５年６月にキューピー株式会社と事業協定を結んだところである。昨年度の取組としては、企業の社員食堂や学校給食でれんこんのサラダを提供した。現在は、クッキング動画や新メニューの開発などを検討している。
- ・現在、本市は人口が回復傾向にある。その要因としては、都和の企業宿舎の跡地において大きな宅地分譲があったことや、つくば市より土浦市の方が、地価が安いという点が挙げられる。本市の強みを

踏まえながら、人口増加に向けてどのような施策が効果的なのか検討していきたい。

【委員】

- ・育児休暇は各会社が作っている職員に対するサービスで、育児休業は法律で決まっている働く人の権利である。総合戦略の中で、育児休業と育児休暇を適切に使い分けてほしい。

【事務局】

- ・休業と休暇が混在してしまっている箇所があるため、改めて内容を精査し、次回の会議で提示したい。

【委員】

- ・総合戦略の中でテレワークに関する記述があるが、テレワークの対象となる仕事は、デスクワークのみではないか。エッセンシャルワーカーはテレワークでの対応が難しく、そのほとんどが女性である。テレワークといわれても、職種上できない方もいるため、その辺りにも配慮しつつ、女性が働きやすい環境づくりの視点を加味した文章にしていきたい。
- ・起業をしたいと考える女性が増えている中で、農業を始めたい女性も増えてきていると感じている。土浦市では、新しく農業を始める方への支援制度は整備されているのか。

【事務局】

- ・テレワークについては、コロナ禍を機に環境が整備された。一方で、エッセンシャルワーカーのようにテレワークをできない方もいることは認識している。そのような中、今回の施策の中にテレワークを位置づけた背景には、働き方改革の中で、国がサテライトオフィスの開設支援などに重点を置いていることがある。テレワークが難しい職種の方がいることを踏まえ、表現について検討したい。
- ・農業に関しては、資料3の15ページの中で担い手育成総合支援事業や機構集積支援事業、新たに果樹産地支援事業を主な取組として位置付けている。現在、農業の担い手は不足している。そこで、女性に限るものではないが、担い手育成総合支援事業として新たに就農する方に経営安定に向けて5年間支援を行っている。さらに、農地の不足に関しては、機構集積支援事業として、土地を貸与する人を募り、担い手に提供して耕作してもらう、そのような農地集積・集約化に取り組む地域に対し協力を金交付するような取組を行っている。

【委員】

- ・土浦市が女性の就農者の受け入れをしてないということはないが、何を作りたいかで受け入れができるかが変わる。土地がまとまっていない中で、れんこんに関しては毎年新規参入者がいるが、売り上げには差があり、借金だけが残ったままやめしてしまう方もいる。女性は、いちごなどの施設園芸を好む傾向にあるため、廃校利用等で市・県と連携して農業ができる環境を整備していくと良い。

【委員】

- ・総合戦略にデジタル技術の活用に関する記述があるが、分野によって扱っているデジタル技術は違うと思う。土浦市として、「デジタル技術」というものをどのように認識しているのか。
- ・前回の会議で提案した、IT企業の誘致の状況はどうなっているのか。
- ・農作物については、今後地球温暖化が進んでいくと、育てられる作物が変わっていく可能性が高い。農業に関しては、地球温暖化を考慮した取組を行わなければならない。

【事務局】

- ・デジタル技術については、AIやRPAなど様々なツールがあるため、どうしてもデジタル技術と総

称せざるを得ないところがある。

- ・例えば、キララちゃんバスではバスロケーションシステムを導入しており、スマートフォンでバスの現在地を確認できるようになっている。また、10月1日からJ:COMスタジアムでは、オンラインで完全予約、許可証提供、キャッシュレス決済ができるオンライン施設予約システムの導入を予定している。様々な現場でデジタル活用が進んできており、その用途にあわせたデジタル技術を導入しているため、総称としてデジタル技術と記載している。
- ・その他にも、スマートフォンで手続きができるオンライン申請など、様々な分野でデジタル技術が浸透してきており、社会課題の解決につながっていると考えている。
- ・IT企業の誘致に関しては、現在政策企画課の方でIT企業を含めて、様々な視点から企業誘致に取り組んでいる。
- ・まち・ひと・しごと創生は、農業の総合戦略ではないが、地球温暖化が影響する部分があれば、検討していきたい。

【委員】

- ・保育士の給料が低い現状がある中、各市町村で助成金制度はあるが、つくば市は正職員であれば月3万円、松戸市は月4万円、土浦市は1万円から1万5千円となっており、土浦市は近隣と比べて助成金が安価である。この状況では、土浦市での保育士確保は難しいのではないかと考える。保育士の待遇を改善すれば保育士は増えるかと考える。保育士を充実させ保育環境を整えないと、子育て層は増えないのではないかと考える。
- ・療育が必要なお子さんが増えていて、その親はフルタイムでの働きが難しくなる。療育環境や保育環境の充実も市の魅力になると考える。

【事務局】

- ・本市の保育士への支援に関して、正職員の保育士の方に月1万5千円を助成している。つくば市の助成金についても認識している。助成金は千葉に行くと高くなり、住居手当もあると把握している。土浦市では全体の財政を見ながら助成する金額を決めている。本市がこの金額を上げる場合は、他市も金額を上げると考えられる。このような地域間競争にならないよう、国が考えるべき案件だと認識しているため、国や県にしっかりと働きかけをしていきたい。

【委員】

- ・アンケート結果では、「育児の心理的・肉体的負担」が2番目にあがっており、前回よりも10%増えているというデータが出ている。子育てに関して、親と一緒に子どもを育てるという「共育て」の意識改革が必要だと考える。性別での役割分業をしていては、第2子を育てようと思う女性は少なくなるのではないかと考える。意識改革には、お金がかからないと思うので、この点に関して戦略を考えていただきたい。

【事務局】

- ・現在、妊婦への訪問支援や金銭的な部分で様々な出産子育て応援支援を行っているが、今回新たに男性の育児休業や家事育児の参画についても施策に追加した。追加理由は、岐阜市においてパパ大学という親になるお父さんに対して講座を開催し、400~500人が参加されているという事例があり、このような取組は本市においてもできるのではないかと考えている。ご意見を踏まえ、その他の子育て支

援についても検討していきたい。

【委員】

- ・育児休業について、第2子を出産後、第1子を保育園等に預けている場合、1年で復帰しないと第1子を今までの園に預けられないという状況にある。近隣では2年まで認められているが土浦市はまだ1年であるため2年にしてほしい。

【事務局】

- ・土浦市の退園制度については、他市の情報を収集し、できるだけ退園しないような制度にするために見直しを検討している。

【委員長】

- ・今回出た意見を整理して、優先順位をつけながら対応をお願いしたい。総合戦略の戦略分野の順番を工夫するなど、優先順位が見えるような形にしてほしい。

(3) その他【事務局説明】

- ・次回の日時は、11月15日（金）10時から、庁議室で開催を予定している。

5 閉 会